

在シドニー総領事通信

第 31 回 オーストラリアで日本語を使う子どもを育てる

令和 2 年（2020 年）12 月 18 日

オーストラリアには、103,638 名の在留邦人がいます。内訳は、長期滞在者が 44,712 名、永住者が 58,926 名です（いずれも令和元年 10 月 1 日現在、外務省海外在留邦人数調査統計）。これは、米国の 444,063 名、中国の 116,484 名に続く世界第 3 位の人数です。

これらの在留邦人の子どもたちの多くは、平日はオーストラリアの現地校に、週末は日本語補習校に通っています。両親とも日本人の子どもも、国際結婚で両親の一方が日本人の子どももいます。そして、特に日本に戻る予定のない子どもは、学年が上がるにつれて、日本にいる子どもと同じレベルの日本語を学び続けることが難しくなってきます。そもそも、オーストラリアの現地校に通っている子どもは、親が日本人であっても、日本語を使う機会があまりありません。

このように日本に戻る予定のない子どもたちに対して、そもそも何のために、そしてどのように日本語教育を行うべきなのでしょう。

今回の総領事通信では、在留邦人の子どもたちの日本語教育について、当館や国際交流基金、日本語補習校や日本語教育研究者など関係者による最新の取組をご紹介しますとともに、将来を担う子どもたちのために、いったいどのような日本語教育を行っていくべきなのか、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。



NSW 州在留邦人日本語教育関係者との意見交換会
(2020年11月26日)

●NSW 州在留邦人日本語教育関係者の意見交換会

昨年6月、「日本語教育の推進に関する法律」が施行されました。その第19条には、「国は海外に在留する邦人の子、海外に移住した邦人の子孫等に対する日本語教育の充実を図るため、これらの者に対する日本語教育を支援する体制の整備その他の必要な施策を講じるものとする。」と規定されています。

それを具体化する基本方針（同月閣議決定）は、その理由について以下のとおり述べています。「海外在留邦人の子に対する日本語教育は、**将来、日本へ帰国した際の就学や就職等に当たっての備え**としても重要である。また、海外に移住した邦人の子孫等は、**我が国と在留国との間の交流や在留国における親日層の拡大における活躍に加えて、多様な言語・文化背景を持つグローバル人材としての活躍が期待できることから、これらの者が日本をルーツに持つことを認識し、我が国に関する理解を深めることを促すため、これらの者に対する日本語教育支援に必要な施策を講ずる。**」（注：太字は筆者が付加）

これらの昨年制定された法律と基本方針により、永住者を含む海外在留邦人の子どもの日本語教育に対する日本政府の積極姿勢が明確化されました。更に、これをフォローアップするためのオンラインの国際フォーラムも、本年10月から来年3月まで開催されています。

このような動きを受けて、11月26日、当館の主催でNSW州在留邦人の日本語教育関係者の意見交換会を開催しました。州内の日本語補習校、シドニー日本人国際学校、国際交流基金、日本語教育研究者、当館から17名が出席し、教育の現場で直面している様々な課題や解決策について話し合いました。

具体的な課題として、文部科学省の国語教科書以外の使いやすい教材へのニーズ、教員の数と質の確保、日本語補習校の経営改善、生徒の学習意欲の維持などが提起されました。それらの解決に向けて、今回の意見交換会の枠組も活用しつつ、お互い連絡を取りながら継続的に取組を進めることを確認しました。次回は半年後に開催する予定です。



日本語を、
「正しい」日本語を話さなくても
怒られない

日本語を話すと褒められる

まずはポジティブなことば体験



NSW 大学・国際交流基金共催セミナー
「オーストラリアで日本語話者を育てることについて考える」資料抜粋
(2020年10月24日)

●NSW 大学・国際交流基金共催セミナーの開始

これに先立って、国際交流基金は NSW 大学との共催で、在留邦人の日本語教育に関するセミナーシリーズを立ち上げました。

10月24日には、「オーストラリアで日本語話者を育てることを考える：NSW 州調査の結果より」をテーマにオンラインのセミナーが開催されました。トムソン木下千尋 NSW 大学教授の講演及び約 50 名の参加者によるワークショップ・意見交換が行われ、私も参加しました。

トムソン木下教授は、オーストラリアが多文化多民族主義を国是とする多言語の社会で、複言語話者であることが当たり前の社会であること（人口の 30% が国外生まれで人口の 27% の家庭言語が英語以外）、日豪関係が良好で親日的であること、知日家が多く、英語圏の国としては特出して日本語教育が盛んであることなど、子どもが日本語を学ぶ当地の環境を説明しました。

そして、日本で育った日本人母語話者の「正しい」日本語を目指すのではなく、それぞれの人を持つことばが違うことを前提に、「わたし語」を育てていくこと、そのために、①できることを評価すること、②得意なことを大事にすること、③自分で学び続ける力をつけることが大事と訴えました。

更に、「継承語（親から受け継ぎ、承ったことば）」の代わりに「繫生語（親や家族、友達との繋がりから生まれ、さらなる繋がりを生み、そこで新しい意味を生み出し、その繋がりや次世代に繋げていくことば）」という用語を使うことを提案しました。そして、それぞれの「繫生語」を含めた豊かな「わたし語」を生き生きと使う子どもたちを育てていきたい、との思いを述べました。

オーストラリアで子育てをする時の 5つの観点ーことばの教育学

- ①親子の「やりとり」・・・コミュニケーションの中身、
内容。eg: 絵本の読み聞かせ
- ②楽しい言語活動・・・得意なことを伸ばす。
- ③学習環境を整える・・・調べる／比較する／まとめる。
- ④子どもを人として認める・・・主体的な学びを尊重する。
話/意見を聞く。心を支える。
- ⑤「移動」の経験を大切にする・・・写真、ビデオ、作品、
日記など。

NSW 大学・国際交流基金共催セミナー
「オーストラリアで『移動する子ども』を考える」資料抜粋
(2020年12月4日)

12月4日には、「オーストラリアで『移動する子ども』を考える」をテーマにオンラインのセミナーが開催され、川上郁雄早稲田大学教授の講演及び約50名の参加者によるワークショップ・意見交換が行われました。

川上教授は、幼少期から複数言語環境で成長する経験と記憶を持つ子どもを、「移動する子ども」という概念で捉え、そのような子どもに対して無理にバイリンガルの言語教育を押し付けるような従来のアプローチに対して疑問を呈しました。

そして、「移動する子ども」に対しては、日本語がどれだけ話せるか、漢字がどれだけ読めるかで評価するのではなく、「移動する子ども」という経験と記憶と向き合う自己を確立すること、「移動する子ども」という経験と記憶を持つ自分は尊い人間であると思えるように支援をすることこそが大事だと訴えました。このような子どもにとって、アイデンティティの形成は特に大きな課題なのだと思います。



オーストラリアで日本語を使う子どもを育てる

🔒 プライベートグループ・メンバー133人



+ 招待する

情報 ディスカッション アナウンス ルーム メンバー イベント メディア ファイル



「オーストラリアで日本語を使う子どもを育てる」Facebook グループ
(2020年10月開始)

●Facebook グループによるネットワーク化

今回のセミナーシリーズの開始を機に、トムソン木下教授のグループは、オーストラリアで日本語を使う子どもを育てる保護者や先生のネットワークを広げていくために、Facebook グループを立ち上げました。

当地の子育てで、日本語を教える上での悩みや成功例・失敗例などを共有し、相談したり学んだりできる場を作ることは、大変有意義だと思います。今後、この取組に多くの保護者や先生が参加し、当地の在留邦人の子ども、更には世界中の海外在留邦人のこどもの日本語教育の改善につながるよう願っています。



シドニーチアリーディングチーム SPRINGS の全豪2大会優勝祝賀会
(2020年12月10日)

●日本語を楽しく学んで使い、日本とつながることで幸せに

このような意見交換やセミナーに参加する中で、オーストラリアの現地校に通い、日本に戻る予定のない在留邦人の子どもが日本語を学び続けるためには、保護者や先生をはじめとする関係者の熱意と環境づくりが本当に大切だと感じました。

先日、シドニーの日本語補習校の放課後活動から始まったチアリーディングチーム SPRINGS が全豪2大会に優勝したので、皆さんを公邸にお招きしました。指導は全て日本語で、安全確保のために子どもたち同士の十分なコミュニケーションが必要な時のみ英語を使うそうです。現地校中心の生活で日本語を使う機会が少ない中、日本語を勉強する動機にもなっていることでしょう。

教育環境の整備で、日本語を学ぶことや使うことが、子どもたちの悩みでなく楽しみになればいいですね。それにより、日本の背景を持つ自分に自信を持ち、日本やオーストラリアをはじめ世界の国々や文化の相互理解や交流を深める担い手になってほしいと思います。

子どもたちが、日本語を楽しく学んで使い、日本とつながることで、日本もオーストラリアも世界も幸せになるよう、総領事館として、在留邦人の子どもの日本語教育を引き続き後押ししていく考えです。ご意見やご提案がありましたら、何時でもご連絡いただければ幸いです。

日本語教育推進に関する法律について（文化庁・外務省）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/index.html

https://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/ca_opr/page23_003065.html

「日本語教育推進法」に関する国際フォーラム：グローバル人材を育む国内外の継承語教育推進のために（2020年10月～2021年3月）

<https://www.bmcn-net.com/forum>

NSW州の補修授業校（当館HP）

<https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/document/japanese/consul/school.pdf>

「オーストラリアで日本語話者を育てることを考える：NSW州調査の結果より」セミナー（動画・資料）

<https://jpf.org.au/events/vod-registration-japanese-language-education-seminar-with-unsw-oct-2020/>

「オーストラリアで『移動する子ども』を考える」セミナー（動画・資料）

<https://jpf.org.au/events/vod-japanese-language-education-seminar-with-unsw-dec-2020/>

「オーストラリアで日本語を使う子どもを育てる」Facebookグループ

<https://www.facebook.com/groups/735510927090013>

シドニーチアリーディングチーム SPRINGS

<https://sydneycheersprings.wixsite.com/mysite>

（以上）